

# 監修者　序

本書は、「実験医学」誌2010年12月号の特集「代謝と老化・寿命を結ぶサーチュイン研究の最前線～The 10<sup>th</sup> Anniversary of Sirtuin Biology～」に併せて企画・実施された、ボストンでのインタビューを基にしています。サーチュイン研究に魅せられ、その最前線で活躍する研究者達の生の声を通して、日本の研究者の方々、特に若い研究者の方々にサーチュイン研究の最先端の魅力を伝えることを目的として作製されました。また、インタビューの動画を「実験医学online」で公開した当時から、「この素材を実践的な英語リスニングのトレーニングに役立てたい」という多数の御要望がありました。そこでライブ収録の英語を丁寧に編集し、その音声と英文の両方を提供することによって、そうした御要望にもお答えできるように努力致しました。

こうして出来上がった本書を手に取ってみると、本書がサーチュイン研究の歴史の一断面を切り取った記録として、重要な価値を持っていることを強く感じます。サーチュインの生物学は比較的新しい分野であるにも関わらず、過去10年余の間に大きな発展を遂げるとともに、エポックメイキングな数々の発見がなされてきました。特にサーチュインが老化・寿命制御の重要な制御因子として大きな脚光をあび、それに伴って激しい議論が戦わされるようになるにつれて、科学者のコミュニティーを超えて一般の人達の間での興味も非常に高まってきています。こうした研究の現状を概観し、サーチュインの研究分野がこれから向かっていく未来について思いを馳せるとき、本書に収録された研究者各人の意見は非常に興味深いものです。これからさらに10年が経過して本書の内容を振り返ってみた時、予想されたことがどれだけ実現しているのか、あるいは予想を遥かに超えたスピードで研究が進むことになるのか、興味は尽きることがありません。さらにサーチュイン研究がもたらす抗老化創薬の可能性、老化・寿命をコントロールできるようになる可能性についても、本書をご覧になった読者の皆さんには、これからのサーチュイン研究の動向に目が離せなくなることでしょう。

こうした最先端のサイエンスに、各研究者が語る等身大のダイアローグを通して触れる事ができる、という機会はそう多くはありません。本書はそのような機会を提供することを目指した、全く新しい試みの第一弾です。本書を手に取られた読者の皆さん、各研究者の個性溢れるインタビューに耳を傾け、サーチュイン研究あるいは老化・寿命研究の発展に興味を抱いて頂ければ、監修者にとって望外の喜びです。特にこのインタビューの中で各研究者が発しているメッセージが、日本の科学の将来を担う若き研究者の方々の心に届くことを願ってやみません。

2011年初冬

アメリカ、ミズーリ州セントルイスにて  
今井眞一郎